

令和3年度

「自己評価」2学期

※2学期自己評価が2.5未満の項目に灰色 1学期と比較して評価が上昇している項目に黄色

鹿児島市立前之浜小学校

〔評価:とてもよい4 よい3 もう少し2 改善を要す1〕

観点	評価項目		自己評価			○成果と●課題	改善策（自己評価2.5未満）	
	内容	1学期	2学期	2学期総合				
I 信頼される開かれた学校教育の推進	1	学校経営方針（グランドデザイン）や課題を理解し、共通実践がなされている。	3.2	2.8	2.4	○小規模校であり職員一人一人の校務分担が多い現状であるが、責任をもって校務を進めた。 ●清掃活動の充実が課題である。清掃時間の設定が週2～3回である上に、緊急事態宣言もあり清掃活動の時間設定ができなかった時期もあった。 ●業務改善を図るための職員一人一人の取組がまだ十分でない。	→日課表を見直し、清掃時間を充実させることで、掃除の仕方や意識の日常化を図る。 →今の枠組みの中で自分自身ができることについて、具体的な目標をもって取り組む。 来年度を見越して、可能な限り日課表や校務全体のスリム化・効率化を図る。	
	2	一学校一改革「汗をかき、心を磨く清掃活動」の実践がなされている ・場所に合った掃除の道具と方法 ・使う人の身に立った掃除（気付き 考え 行動する） ・自省を促し感謝を育む時間	2.4	2				
	3	校務分掌組織をもとに「報告・連絡・相談」を確実にし、連携・協力を計画的に校務を進めている。	2.6	2.6				
	4	諸行事等の反省・評価が適切になされている。	2.6	2.6				
	5	業務改善に向け、学校全体として1アクション、教職員一人一人の1トライに取り組んでいる。	2	1.8				
	II 確かな学力をもち個性あふれる子供の育成	6	学級PTA、PTA専門部活動及び学校保健委員会、家庭教育学級等、保護者と協力・連携して進めている。	2.6	3	3	○様々な行事運営において保護者の方々の協力をいただいた。 ○「チョイのチョイ踊り」「読書集会読み聞かせ」「稲刈り・脱穀」「蕎麦作り」「先人の知恵を学ぼう」等の教育活動で学校支援ボランティアの活用がなされた。	
		7	「学校支援ボランティアの活用」や「まちづくり協議会との連携」を通じた地域の特性を生かした活動がなされている。	2.8	3			
		8	校内研修や個人研修、研修会参加等を通して指導力の向上がなされている。	2.6	2.6	2.9	○ICT活用研修や複式研究授業を通して具体的な内容で研修を行い指導に生かすことができた。 ○計画的かつ機をとらえ、具体的な内容で服務研修を行い、教育公務員としてのあるべき姿を確認できた。	
		9	つねに常に教育公務員であることを自覚して信頼される行動を心がけている。（飲酒運転の禁止・交通安全・情報管理・金品管理等）	2.6	3.2			
		10	適正な勤務時間、健康診断の受診等、心身の健康を意識し自己の健康管理がなされている。	2.8	2.8			
III 道徳心や社会性を養いたくましい子どもの育成	11	基礎的・基本的事項の確実な定着を図っている。（単元テスト80%以上、めあてとまとめの板書、小テスト）	2.3	2.4	2.5	○計算力向上、漢字力向上のためのミニテストや練習プリントに繰り返し取り組ませ定着を目指している。 ●学力や家庭学習取組の個人差の解消に取り組んできたがまだまだ課題が多い。家庭学習の習慣づけや見届けについては1学期同様保護者の評価も低い（2.2）。	→家庭学習の内容を固定化し、毎日継続して出す。それを保護者に連絡し家庭での協力をいただく。（週報、PTA等）	
	12	家庭学習の方法について具体的に指導し、継続して取り組ませている。（10分×学年+20分）	2.5	2.6				
	13	校内研修と関連させ、学年に応じた学習のしつけやガイド学習定着の指導がなされている。	2	3	2.7	○2学期は複式研究授業を通して、段階的な学習の仕方やガイド学習の在り方について確認し実践につなげることができた。 ○複数の職員で協力した指導や支援を進めた。成果と課題を整理して、さらに効果を上げていく必要がある。 ○児童相互の話合い活動や、発表・報告活動を充実させることができた。 ○タブレットを普段の学習や家庭学習で活用する機会が増えた。 ●継続的なタブレット活用を進めていかないと、操作の仕方が定着しない。	→学習における継続的な活用や総合的な学習で単元を計画することで、様々な活用方法に慣れていくようにする。ICT研修を定期的に設定しさらに研修を深める。	
	14	個別の指導計画等をもとに、一人一人の児童の実態に応じた指導・支援がなされている。	2.4	2.4				
	15	ICTを積極的・効果的に活用し、わかる授業づくりを実践している。	2.5	2.5				
	16	言語活動（読書・音読・表現の場）を充実させ、表現力の育成のための指導がなされている。	2.5	2.8				
IV 運動心や社会性を養いたくましい子どもの育成	17	「考え、議論する」道徳の授業実践や評価の工夫がなされている。	2.5	3	2.9	●1学期と比べて評価は上がっているが、自主的な奉仕活動の取組がまだまだである。 ○2学期は読書イベントを充実させ、子供たちの読書意欲や読書量も向上した。	→学級園の世話が一番わかりやすい活動なので、週1回（2週間に1回）でも継続する。 →学校内の活動だけでなく、地域清掃など取り入れ、自分たちの町を自分たちできれいにする意識をもたせる。	
	18	生活の場で、道徳の実践力の育成や豊かな感性の育成がなされている。（ボランティア活動、人との触れ合い、清掃・奉仕活動など）	2.4	2.6				
	19	個に応じた読書量を確保するために、具体的な手立てを講じている。	2.8	3				
	20	仲良し体育、教科体育を通して体力・運動能力の向上がはかられている。（「一校一運動」なわとび、「ちょとれ運動」）	2.3	2.6	2.5	○運動会等の体育的行事を通して、体力の向上を図ることができた。 ●一校一運動、ちょとれ運動の取組を充実させる必要がある。 ○感染症対策のための体調チェックや全校手洗いを実践した。 ●う歯治療率は低くないが、生活リズムが乱れがちな子供が少なくない。	→全校体育を定期的に計画する。体育の学習における準備運動や補助運動の内容を工夫して取り組む。	
	21	月目標や健康診断結果をもとに、基本的健康習慣の定着がなされている。（早寝・早起き・朝ご飯、う歯治療率100%）	2.8	2.4				
	22	全職員が全校的な視野に立って、生徒指導上の諸課題について共通理解・共通実践がなされている。	2.6	2	2.6	●生徒指導上の問題について、月一の心の教育推進委員会や職員連絡会等で情報を交換し、共通理解することができているが、共通実践が不十分である。 ○生活のきまりによる基本的な生活習慣の指導やニコニコ月間による人間関係づくりの取組がなされている。 ○気になる子供については、保護者に連絡したり教育相談を行ったりして情報を共有し支援・見届けを行った。	→共通理解・実践の様子について定期的にチェックする機会を設ける。改善が必要であれば、職員全体で話し合う。	
	23	一時徹底事項の指導と見届けがなされている。（挨拶、履物、廊下歩行、言葉づかい）	2.4	2.2				
	24	子ども一人一人の基本的な生活習慣の確立のための指導がなされている。（生活のきまり、月目標）	2.6	2.8				
25	よりより人間関係づくりのために、いじめ問題を考える週間、ニコニコ月間等で手立てを講じている。	2.8	2.8					
26	教育相談を計画的・意図的に実施し、保護者との連携・協力がなされている。	2.8	3					